

直轄業務の発注方式選定表

実態に合わせて改定へ

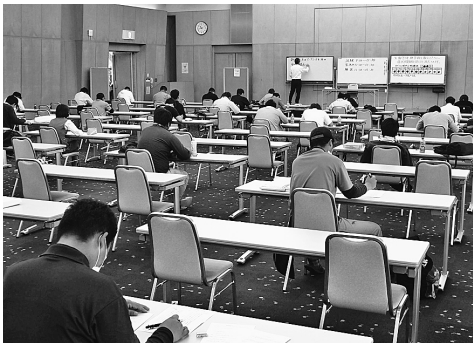
国交省

国土交通省は、直轄業務の発注方式を業務内容と事業別に整理した「発注方式選定表」を見直す。2014年度に策定して以降は変更しておらず、実態との乖離が見られることから、各地方整備局での発注実績に見合った内容に改定する。22年度中の改定を目指し、1月13日に開いた「発注者責任を果たすための今後の建設生産管理システムのあり方に関する懇談会」の業務・マネジメント部会で改定案を示した。選定表では、道路事業や河川事業などの直轄業務について、内容や特性を踏まえ、業務の種類ごとに適用すべき発注方式をまとめている。発注方式はプロポーザル方式、総合評価方式、価格競争方式の3タイプに分類。例えは、道路事業の水文調査は、専門的な技術が要求されることを踏まえ、プロポーザルを適用すべきとしている。ただ、2021年度の地方整備局での水文調査の発注実績を見る限り、対象17件のうち、プロポーザルで発注した件数は4割程度の7件にとどまる。残る10件は総合評価か価格競争で発注していた。こうした実態を踏まえ、改定案では、道路事業の水文調査について、一般的な分析を含む場合は総合評価、資料作成が中心なら価格競争を適用するよう選定表を改める。

電気工事・建築施工管理技士

願書申請

2023(令和5)年度は、長崎会場をはじめ、九州各会場で開催する。長崎会場は、2月13日(午前9時30分～午後4時30分)から長崎県建設総合会館(長崎市魚の町)で開講する。合格責任指導体制のため定員は50人。すでに申し込みを受け付けているが、各講座とも定員になり次第、締め切りとなるため、早めの申し込みを呼びかけている。



感染症対策した講習会のような様子

合格対策講座を開催

長崎 2月13日開講

建設管理センター九州事業部

開催講座・受講料(税込)は、「建築」「電気工事」のほか、「土木」「電気通信工事」「管工事」「造園」の各施工管理技士で、一級が16万5000円(第1次検定)、二級が15万4000円(第1次・第2次検定)。「二級建設機械施工管理技士」は全6回開

催で9万9000円。公的助成金の対象講座となつている。国土交通省は、技術検定制度の見直しに伴い、2021年度から学科試験を「第1次検定、実地試験を「第2次」検定とし、第1次検定の合格者に技士補の資格を与える。また、経営事項審査の審査基準も改正、技術力(Z)の技術職員数の評価項目で1級技士補を加点対象とすることとした。

技術者の高齢化による減少や担い手不足解消に向け国交省は、これまでに受験資格要件の緩和や学科試験の回数を増やし、受験チャンス拡大を図ってきた。2021年度からは第1次検定に合格すれば、技士補の有資格者が第2

た件数は4割程度の7件にとどまる。残る10件は総合評価か価格競争で発注していた。こうした実態を踏まえ、改定案では、道路事業の水文調査について、一般的な分析を含む場合は総合評価、資料作成が中心なら価格競争を適用するよう選定表を改める。

この他、道路の詳細設計や河川の施設点検調査なども同様の考え方で見直す。現行の選定表にない「3次元点群測量(U

AV写真測量、地上レーザー測量、UAVレーザー測量)」については、測量の業務区分に新たに追加する。標準の発注方式は総合評

価となる。選定表は、「建設コンサルタント業務等におけるプロポーザル方式及び総合評価落札方式の運用ガイドライ

ン」に記載している。選定表の改定に併せて、プロポーザルの適用を検討する際の留意事項を新たにガイドラインにも追記する。

39人を対象にした特別出前講座&橋梁工事現場見学会「優しさを形に変える仕事」ドボクのプロとその魅力を知らう!」を実施。まず諫早農高で、デミ

森山拡幅工事舞台にドボクの魅力発信

地元高校とコラボ 島鉄でラッピング列車も

国道57号森山拡幅橋の魅力を発信する『長崎いさはやDOVOCウィーク!!』が1月21日(土)から2月19日(日)にかけて行われる。初弾のイベントとして、1月23日(月)に、諫早農業高校生を

対象にした講演会・現場見学会を実施。期間中は、土木の魅力やラッピングと中吊り広告で発信する島原鉄道の車両も運行される。このイベントは、(株)横河NSエンジニアリングと長崎河川国道事務所、デミ博士(長崎大学職員・出水亨氏)、地元高校がコラボレーションして進めるもの。

23日には、諫早農業高校農業土木科2年生が、現場に移動し、最新技術の活用状況などを見学するとともに、一部の作業を体験する計画だ。期間中はこのほか、2月11日に諫早高校の写真を招いた下井牟田赤崎高架構上部工事現場の撮影会を実施。2月14日、19日には、



その上で、森山拡幅事業で長崎河川国道事務所が発注、横河NSエンジニアリングが施工する「下井牟田赤崎高架構上部工事」現場に移動し、最新技術の活用状況などを見学するとともに、一部の作業を体験する計画だ。期間中はこのほか、2月11日に諫早高校の写真を招いた下井牟田赤崎高架構上部工事現場の撮影会を実施。2月14日、19日には、

また、期間中(1月21日～2月20日)にドボクの魅力を発信するラッピング列車を島原鉄道で運行(3編成)。同車両には、土木構造物の写真などの中吊り広告も下げられている。これらの活動概要は、既にインスタグラム(@MORIYAMA KAKUFUKU-YO KOGAWANS)で発信中。今後も随時更新していく。

工事公害防止など

日建連が標語募集

日本建設業連合会(日建連)の環境公害対策部会は、建設工事の公害防止と建設副産物の削減・再利用などに関するポスターに使

用する標語の募集を開始した。応募資格は会員企業と協力会社の社員、工事関係者。締め切りは2月28日。標語は、現場に掲示するポスターのキャッチコピーに使う。テーマは▽現場で発生する騒音・振動などの公害

防止▽建設副産物の削減・再利用・適正処理▽環境保全。最優秀1作品に1万円、佳作数作品に3000円(商品券)を贈る。

応募は1人3作品以内で、電子メールで送付するか、ウェブサイト



▲島鉄ラッピング列車のデザイン